



KAWASAKI
SDGs



Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

川崎市における脱炭素社会の実現に向けた 取組について

かわさき脱炭素先行地域



産学官金の連携の取組により、脱炭素先行地域から、
みぞのくち周辺、市域全体、日本全国への脱炭素ドミノ展開

2030年度

【川崎市概要】

○人口 : 1,553,920 人

○世帯数 : 790,411 世帯

○面積 : 144.35 km²

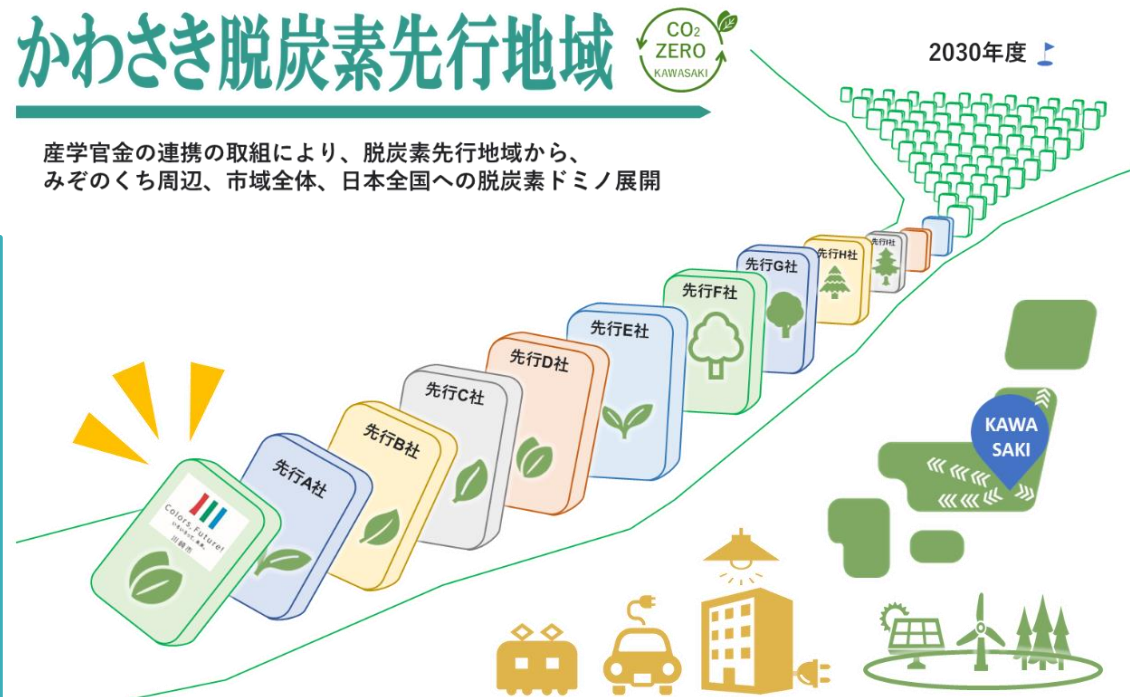
※令和7(2025)年4月1日現在

○産業が盛んなまち

従業者1人当たり製造品出荷額等
7,163万円

→大都市の中で最も多い

※令和3(2021)年経済センサス・
活動調査



令和7(2025)年5月

川崎市

川崎市の地球温暖化対策の取組

- 川崎市では、脱炭素社会の実現に向けて、段階的に様々な取組を行ってきました。

低炭素⇒**脱炭素**へ

令和2（2020）年	2月 「2050年のCO2排出実質 ゼロ 」を表明 11月 脱炭素戦略 「かわさきカーボンゼロチャレンジ」を策定 「 脱炭素アクションみぞのくち 」創設
令和4（2022）年	3月 「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」改定 「川崎カーボンニュートラルコンビナート構想」を策定 4月 「 脱炭素先行地域 」選定
令和5（2023）年	3月 「川崎市地球温暖化対策等の推進に関する 条例 」改正
令和6（2024）年	4月 地域エネルギー会社「 川崎未来エナジー株式会社 」事業開始
令和7（2025）年	4月 「新築建物への太陽光発電設備設置の 義務制度 」施行

Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

-
- 東急線全路線でのRE100
- 駅前商業ビルでのRE100
- 学校・区役所等に再エネ100%電力を導入
- 環境にやさしい行動を
 たくさんするアプリの開発
- 廃棄物発電（バイオマス）
- 水素ステーション開設
- 溝の口駅前の木質化
- 鉄道駅における
 水素エネルギー活用

国の「脱炭素先行地域」に選定

(令和4(2022)年4月)

【対象地域】 高津区溝口周辺に所在する民間施設群,川崎市のすべての公共施設

【取組事業者】 川崎市、アマゾンジャパン、脱炭素アクションみぞのくち会員企業

【進捗】 再エネ等電力供給量 約196GWh

一般家庭約42,000世帯の年間電気使用量に相当



アマゾンジャパン【太陽光発電設備】

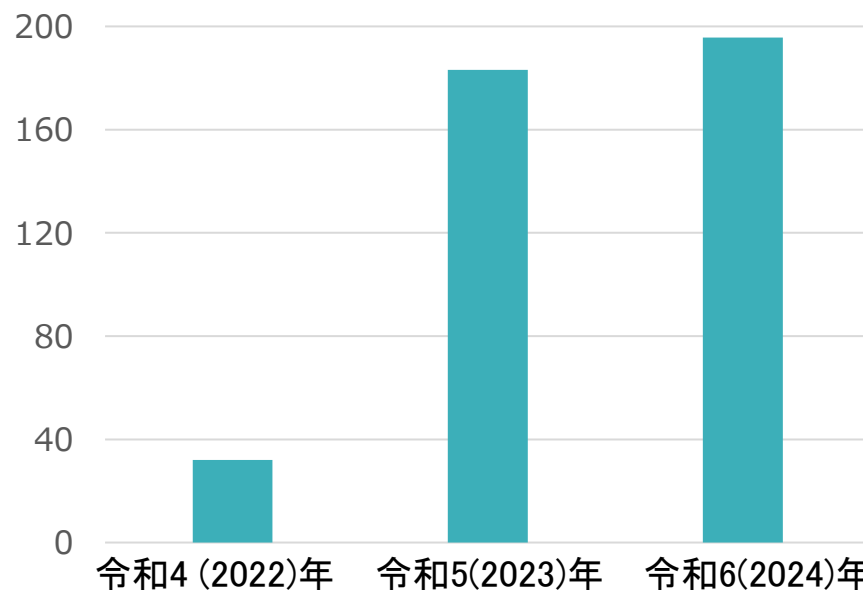


川崎信用金庫【ソーラーカーポート】



ヤマト運輸【太陽光発電設備】

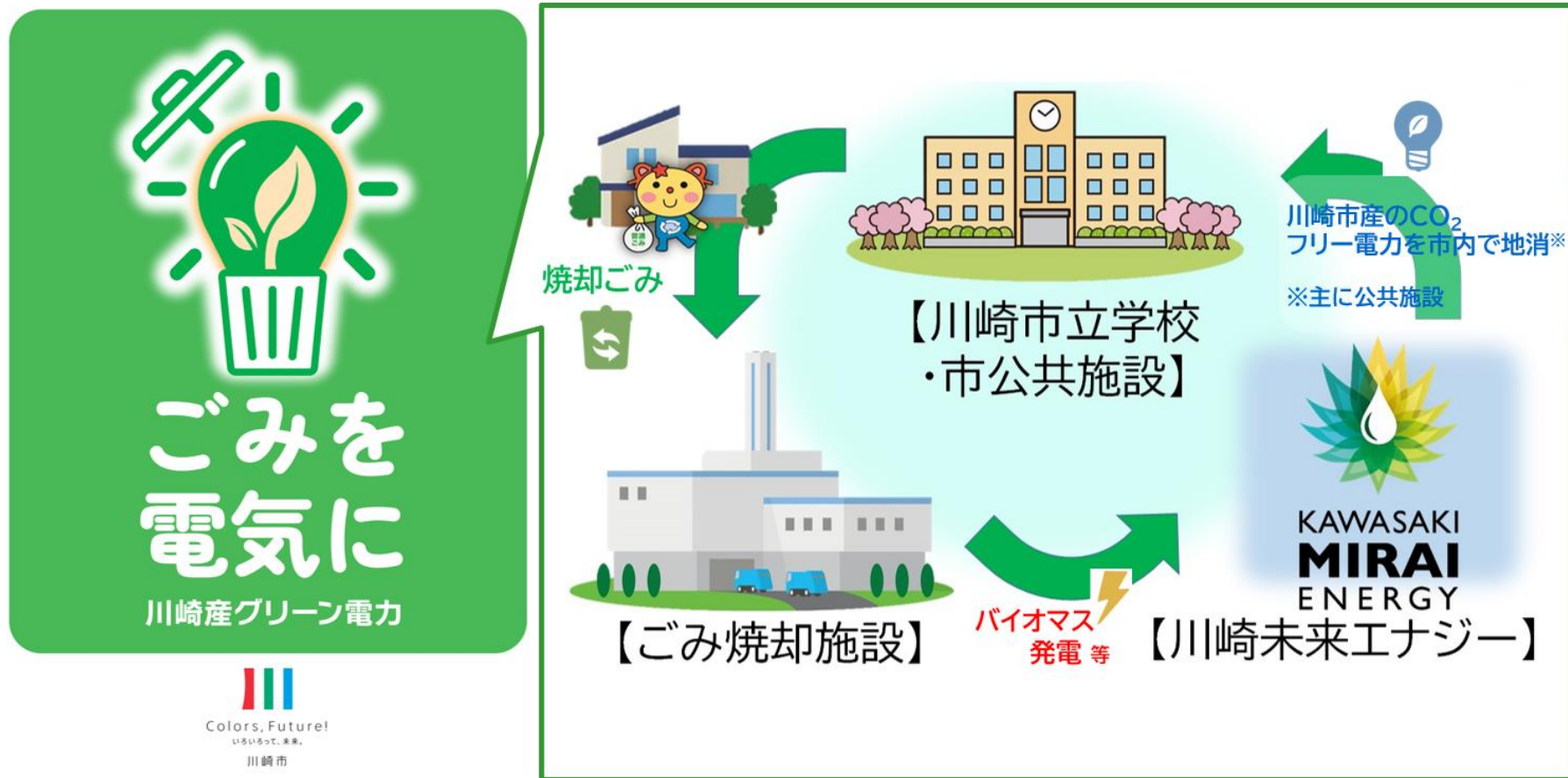
再エネ等電力供給量 (GWh)



令和4 (2022) 年	令和5 (2023) 年	令和6 (2024) 年 (見込)
32	183	196

川崎未来エナジー(株)が再エネ電力の供給を開始

● ごみ焼却処理施設等から生まれた再エネ電力※を川崎市内の事業者に供給開始 (令和6(2024)年4月～) ※一般家庭約20,000世帯の年間電気使用量に相当



令和7(2025)年度は公共248施設の外、脱炭素先行地域に参画する一部民間事業者にも再エネ電力を供給し、市域の再生可能エネルギーの普及拡大や地産地消に向けた取組を推進

新築建物への太陽光発電設備設置の義務制度

＼ 建築主・建築事業者（工事施工者）の皆さまへ /

令和7（2025）年4月から

太陽光発電設備等の 設置義務化がスタート



川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例の改正（令和7年度施行分）